

事業群評価調書(平成30年度実施)

基本戦略名	10 にぎわいと暮らしを支える社会基盤を整備する	事業群主管所属	土木部道路建設課
施策名	(1) 九州新幹線西九州ルートなどの人流・物流を支える交通ネットワークの確立	課(室)長名	大塚正道
事業群名	② 高規格幹線道路・地域高規格道路の整備による高速交通ネットワークの構築	事業群関係課(室)	地域づくり推進課

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文)							(取組項目)			
観光の振興、企業立地の促進や物流の効率化には、地域間の時間短縮、定時性の確保やミッシングリンク※の解消が課題です。このため、地域の交流促進や連携強化に有効な高規格幹線道路や地域高規格道路など、規格の高い道路の重点的な整備を推進します。 ※ミッシングリンク:高規格幹線道路等のうち未整備区間で途中で途切れている区間のこと							i)西九州自動車道の整備促進、九州横断自動車道4車線化の事業促進 ii)島原道路の整備促進 iii)西彼杵道路の整備促進及び長崎南北幹線道路の事業化へ向けた調査 iv)島原天草長島連絡道路の実現に向けた検討 v)高規格幹線道路・地域高規格道路の整備と一体となった国県道の整備促進			
事業群	指標		基準年	H28	H29	H30	H31	H32	最終目標(年度)	(進捗状況の分析)
	高規格幹線道路・地域高規格道路の供用率	目標値①		53.4%	57.0%	59.2%	59.2%	60.6%	60.6% (H 32)	平成29年度は、国において高規格幹線道路の西九州自動車道を整備しており、伊万里松浦道路の今福IC～調川ICが平成29年11月に開通し、計画通り進捗が図られた。引き続き調川IC～松浦ICの平成30年度供用に向けてトンネル工事などの整備が進められている。松浦佐々道路については、用地取得及び工事が進められている。地域高規格道路は、島原道路では6工区の整備を推進しており、吾妻愛野バイパスが平成29年12月に開通し、計画通り進捗が図られた。諫早インター工区においては地元調整等に時間を要したことから、一部区間のみの供用となったが、概ね目標は達成した。また、西彼杵道路の時津工区の整備を推進し進捗を図った。
		実績値②	53.4% (H 26)	53.4%	56.4%				進捗状況	
		②/①		100%	98%				やや遅れ	

2. 29年度取組実績(H30新規・補正は参考記載)

事業 番号	取組 項目	事務事業名	事業 期間	事業費（単位:千円）			事 業 概 要		指標(上段:活動指標、下段:成果指標)					29年度事業の成果等	中核 事業						
				H28実績	うち 一般財源	人件費 (参考)	事業対象	29年度事業の実施状況 (30年度新規・補正事業は事業内容)	指標	主な目標	H28目標	H28実績	達成率								
		H29実績		H29目標							H29実績										
		所管課(室)名		H30計画							H30目標										
1	取組 項目 i	企画調査費	—	52,140	52,140	6,434	国土交通 省等	国等への要望活動を行う際の資料として、現状の問題点や課題を整理したうえで、ストック効果(整備効果)などを整理した資料作成を行った。	活動 指標	(国等への)要望活動 回数	5	4	80%	作成したストック効果などの資料とともに国等へ新規事業化や事業促進の要望活動などを行っており、国道34号大村諫早拡幅が平成30年度の新規事業化となり、西九州自動車道(佐々IC～佐世保大塔IC)の4車線化においては平成30年3月に事業許可となった。	○						
				83,840	77,529	6,437					5	6	120%								
				64,536	60,136	6,397					5										
		道路建設課				成果 指標			新規事業化箇所数	1	1	100%	2			2	100%	1			
2	取組 項目 ii	島原道路の整備促進 (公共)	H20-	8,591,588	18	—	道路利用 者	・(国)251号(吾妻愛野バイパス)工事を推進し供用を開始した。 ・(国)251号(出平有明バイパス)測量、設計、用地取得、橋梁上下部工を推進した。 ・(国)251号(瑞穂吾妻バイパス)測量、設計を推進した。 ・(一)諫早外環状線(諫早インター工区)盛土工、橋梁上下部工を推進し、小船越IC～栗面IC間を供用開始した。 ・(一)諫早外環状線(長野～栗面工区)用地取得、トンネル工を推進した。	活動 指標	事業箇所数(箇所)	5	5	100%	吾妻愛野バイパスの完成により、愛野森山バイパスと広域農道が直接つながること、島原方面～諫早方面を結ぶ交通アクセスが大幅に改善された。	○						
				7,482,718	74	—					5	5	100%								
											4										
				道路建設課	7,167,935	155			—	成果 指標	島原道路の供用率 (%)	26	26			100%	30	35	116%	43	

3	取組項目 iii	西彼杵道路の整備促進(公共)	H25-	869,582	102	—	道路利用者	・(一)奥ノ平時津線(時津工区) 用地取得、トンネル工を推進した。	活動指標	事業箇所数(箇所)	1	1	100%	平成29年度は、用地取得とトンネル工の推進を図った。	C
		1,916,655		82	—	1				1	100%				
		2,227,050		66	—	1									
		道路建設課				成果指標	西彼杵道路の供用率(%)	28	28	100%					
4		重要幹線街路調査費(公共)	H29-30				道路利用者	長崎南北幹線道路(茂里町～滑石)など都市計画道路の事業化に向けた調査を実施した。	活動指標	調査路線数				平成29年度は、長崎南北幹線道路の事業化に向けた事業効果分析等を行った。	
		6,200		4,200	—	1				1	100%				
		8,700		5,900	—	1									
		道路建設課				成果指標	調査設計成果品	1	1	100%					
5		重要幹線街路調査費(単独)	—	28,855	15,230	804	道路利用者	長崎南北幹線道路(茂里町～滑石)など都市計画道路の事業化に向けた調査を実施した。	活動指標	調査路線数	1	1	100%	平成29年度は、長崎南北幹線道路の事業化に向けた概略設計及び交通量推計等を行った。	
		2,519		1,260	807	1				1	100%				
		41,281		20,641	801	1									
		道路建設課				成果指標	調査設計成果品	1	1	100%					
6	取組項目 iv	島原・天草・長島架橋構想等推進費	S63-	1,316	1,316	1,608	島原・天草・長島架橋建設促進協議会	島原・天草・長島架橋建設促進協議会を通じて、国への要望活動や、地方大会開催、3県の地域間交流連携事業などの事業を実施し、国に対し、構想実現の社会的意義と地元の熱意を強く訴え、地元機運の醸成を図った。	活動指標	(国等への)要望活動回数	2	2	100%	国等への要望活動など行ったが、国による調査の再開には至らなかった。	
		1,295		1,295	1,609	2				2	100%				
		1,345		1,345	1,599	数値目標なし				—	—				
		地域づくり推進課				成果指標	島原・天草・長島連絡道路の実現に向けた調査の再開	数値目標なし	—	—					
7	取組項目 v	国県道の整備促進(公共)	H26-	1,566,345	145	—	道路利用者	・(国)207号(佐瀬拡幅)について、改良工及び舗装工を実施し、一部供用開始した。 ・(主)諫早飯盛線(栗面工区)については、全線供用開始を行った。	活動指標	事業箇所数(箇所)	6	6	100%	(国)207号(佐瀬拡幅)については、進捗が図られたため、目標を上回る延長を供用開始することができた。	
		1,986,530		360	—	5				5	100%				
		1,287,339		331	—	4									
		道路建設課				成果指標	国県道の供用延長(km)	0.4	1.5	375%					

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i)西九州自動車道の整備促進
・西九州自動車道の供用率は64.6%であり、未供用区間が21.3kmあるため、ミッシングリンクが残っている。 ・西九州自動車道の事業主体は国であるが、県としても西九州道推進室を中心に国の用地取得を支援している。 ・今後も、引き続き道路整備の必要性を示したストック効果などの資料を作成し、今後も事業促進を国等へ要望していく。
ii)島原道路の整備促進(公共)
・島原道路の供用率は35%であり、未供用区間が32.5kmある。 ・吾妻愛野バイパスは平成29年度に供用開始を行った。 ・出平有明バイパスは一部用地取得、橋梁工事を行っており、今後も、工事の本格着手に向け、引き続き鋭意用地取得に努める。 ・瑞穂吾妻バイパスは平成28年度に新規事業化しており今年度測量を実施した。今後も、測量設計を実施し、早期の用地交渉着手を目指す。 ・諫早インター工区は今年度、小船越IC～栗面IC間の供用開始を行った。残りの区間についても早期の供用開始を目指し鋭意工事を推進する。
iii)西彼杵道路の整備促進及び長崎南北幹線道路の事業化へ向けた調査
・時津工区は平成28年度からトンネル工事に着手しており、引き続き工事推進のため必要な予算の確保を行っていく。 ・長崎南北幹線道路の早期の都市計画決定や事業化に向け、地元調整や調査設計等を実施していく。
iv)島原天草長島連絡道路の実現に向けた検討
・国等への要望活動など行ったが、国による調査の再開には至らなかった。 ・原因としては、国が効率的な道路整備のあり方、委託調査の適正化についての議論を踏まえ個別の架橋プロジェクトに関する調査を中止しているためである。 ・調査の再開には、事業の必要性について、普及啓発活動等を通じ地元の機運醸成を図るとともに、国に対して継続的に強く働きかけることが必要である。

4. 30年度見直し内容及び31年度実施に向けた方向性

事業 番号	取組 項目	事務事業名	30年度事業の実施にあたり見直した内容 (H30の新たな取組は「H30新規」等と記載、見直しがいない場合は「－」と記載)	31年度事業の実施に向けた方向性		
				事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
1	取組 項目 i	企画調査費	平成30年度においては、島原道路(有明～瑞穂)の新規事業化や整備予算の確保に向けて、現状の問題点や課題を整理したうえで、道路整備に併せて行っている地元の取組を踏まえたストック効果(整備効果)などを整理した資料を作成し、国等へ要望活動を行っていく。	－	平成31年度においても、平成32年度以降の予算確保や新たな新規事業化に向けて、現状の問題点や課題を整理したうえで、道路整備に併せて行っている地元の取組を踏まえたストック効果(整備効果)などを整理した資料を作成し、国等へ要望活動を継続して行っていく。	現状維持
5	取組 項目 iii	重要幹線街路調査費 (単独)	平成30年度においては、長崎南北幹線道路の新規事業化に向けて、現状の問題点や課題を整理したうえで、早期の事業化に向け地元調整及び調査設計を行う。	－	平成31年度においても、平成32年度以降の新たな新規事業化に向けて、現状の問題点や課題を整理したうえで、早期の事業化に向け地元調整及び調査設計を行う。	現状維持
6	取組 項目 iv	島原・天草・長島架橋 構想等推進費	平成30年度においては、構想実現に向け、協議会の取組として、関係機関との意見交換、情報収集、勉強会等を実施するとともに、更なる機運醸成を図るため、普及啓発事業の情報発信に係る取組を強化する。	⑨	他県の動きなどの情報収集や意見交換会等、平成30年度事業の実施成果を踏まえ、国に対するアプローチ手法など、要望活動充実を図っていく。 平成31年度も引き続き三県で連携し、構想の実現に向けた取組みを推進していく。	現状維持

注:「2. 29年度取組実績」に記載している事業のうち、H29年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができているか。

② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。

③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。

④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。

⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。

⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。

⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。

⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。

⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。

⑩ その他の視点